

# 美術科学習指導案

指導者 山本勝彦

1. 日時 平成18年2月8日(水) 第3校時

2. 学級 1年2組 男子20名 女子17名 計37名 北校舎4階 第1美術室

3. 題材 木版画 「友だちの表情」

## 4. 題材について

版画の学習は、下絵づくり・彫り・刷りの3段階がそれぞれ独自の内容をもちながら主題の追究という連続性をもって進められる。構想力や計画性等の表現に必要な諸能力を耕すことができるとともに、それぞれの段階で友達やグループ、教師と協力しながら制作を進める場面が多く、人間関係の醸成の面でも教育的な側面が強いものである。さらに、テーマ設定を日常生活の様々な場面に目を向けさせることで、幅のある生徒一人一人の「よさ」をいっそう引き出せる教材でもあるととらえる。

事前調査の結果から、生徒のほとんどは小学校の時に紙版画、木版画、イモ版画などの凸版画を経験しているが、必ずしも成功感、達成感を得てきているとは言いがたい。小学校での版画の題材は風景画や空想画などが多く、人物画は全く初めての生徒がほとんどである。生徒は入学以来、「描画の基本」、「粘土スケッチ」、「色彩の学習」、「風景画」(写生会)などの学習を進めてきた。特に、「描画の基本」の学習では観察力や描写力を身につけさせる指導をしてきた。表現力の高まりについては課題があるものの学習意欲は高い生徒が多い。しかし、生徒の中には、何れの題材においても「描く」ことに苦手意識をもち、表現することへの抵抗感のあるものがある。また、今回の木版画の制作にあたり、スケッチを繰り返す中で苦手意識の克服をはかってきたが、自己満足に陥り表現意図にせまることができないものもある。

そこで、これまでの下絵の指導にあたっては、学習してきた描画の基礎・基本をもとに、互いの作品制作についての学び合いの場を設定し、人物や表情のとらえ方や構図の取り方、観察する視点の置き方による画面の変化が、表現意図に大きくかわることを指導してきた。本時では、前時までの下絵制作の表現追求の在り方を振り返るとともに、本単元の大きな柱として表現意図を生かす効果的な彫刻刀の使い方やその彫り跡にはどのような方法があるかとらえさせるために、具体的な参考作品の中から観察の視点を示し生徒相互に考えさせるとともに、試行体験の過程から自己の作品に生かすための工夫はどうあればよいか根拠をもって制作ができるように指導していきたい。

## 5. 指導と評価の計画(別紙)

## 6. 本時の達成目標

美術への関心・意欲・態度	木版画の特徴をとらえ、独特な技法に関心を示して版表現のねらいを把握しようとしている。
発想・構想の能力	表したい表情を決め彫りの効果を考えながら、構想することが出来る。
創造的な技能	彫刻刀の種類を使い分けることで、彫り跡を作品に生かすことができる。
鑑賞の能力	作品の工夫した点や独特な版画表現を味わうことから自他の作品のよさや美しさを感じ取ることが出来る。

## 7. 本時の指導の構想

(1) 本単元において、これまで表現意図を深めるための画面構成と表情をとらえるための視点に重点をおき、制作を進めるうえで個人や学級全体で相互に鑑賞する場面を取り入れることにより、個人が抱えている課題の解決をめざし指導をしてきた。

本時では、具体的に刷り上がった参考作品例を示し、その中で効果的に表現されている彫刻刀の様々な彫り跡の違いを観察するとともに、実際に試行をさせる中で版木に転写し描き込んだ自己の作品(下絵)のどの部分にどのような彫りを生かすことで、自分が意図する表現に近づくことが出来るかを考えさせたい。実際に、彫りの試行体験の場面では、自己の観察でとらえた彫りの違いだけでは単調なものとなり、効果的な表現に近づくことが出来ないことが予想される。そこで、他者の工夫を相互に観察する場を必要に応じて意図的に設置し、より幅広い彫りの工夫を見つけさせ、表現意図に迫るためには、様々な彫り跡を工夫することが大切であることに気づかせ自己の作品への生かし方をつかませたい。

なお、本時は版画の中心的な制作の一つとしての彫りの導入段階でもあるので、彫刻刀等の用具の安全な取り扱いや整備のし方についても随時指導をしていく。

(2) 本時におけるかわり合いを生かす手立てとしては、指導展開の場面で生徒相互の観察による自他の彫りの違いや生かし方について根拠をもってとらえさせ、その違いを発表し合うことで生徒相互の表現追求の補足をはかりたいと考えている。

A 達成度 B 学習速度 C 取り組み方法(学習方法)

D 見方・考え方 E 興味・関心 F 生活経験

8. 本時の展開

1年2組 3校時 木版画

指導者 山本勝彦

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	教材・教具等
導入	課題把握	15	<p>・道しるべ、版木、彫刻刀など机上に整理できる。 元気に挨拶できる。</p> <p>1. 前時までの学習内容、各自の進捗状況を想起できる。</p> <p>2. 彫刻刀の種類と彫りのあとなどの違いについて、資料から確認する。</p> <p>3. 学習課題を把握する。</p>		<p>1. 前時までに下絵を完成させたこと、学習準備がなされていることを確認し、本時の内容に入る。 前時までに使用したTPを掲示。本時からの制作過程を再確認させる。</p> <p>2. 彫刻刀の種類と使い方その基本的な彫りの違いを発言させる。</p> <p>3. 各彫刻刀による彫りあとの違いにより、様々な表現ができることに気づかせて、学習課題を把握する。 E</p>	<p>彫刻台 彫刻刀(予備) 道しるべ 学習シート</p> <p>・紙板書 学習課題</p>
			<p>表現意図を効果的に表すための彫りの工夫をしよう</p>			
展開	課題追究	25	<p>4. 観察にて参考作品の彫りの工夫を把握できる。</p> <p>5. 彫りの試行体験をする。</p> <p>6. 試行体験をもとに自己の制作課題を明確にし彫り進めることができる。</p>	<p>4. 発表内容 彫刻刀の使い方による彫りの違いが、意図する表現に効果的であることを根拠をもって説明できる。</p> <p>A: 彫刻刀の特徴、彫りあとの違いを明確に指摘し、表現意図をより効果的に表すための具体的な工夫のあり方を、根拠をもって説明できる。</p> <p>C: 観察の視点を確認させ、参考作品で具体的な彫りの違いを示し、自分の作品に生かせるところを考えさせる。</p>	<p>4. 観察の視点による作品鑑賞を通して、表現意図に迫るためには様々な彫りを工夫することが大切であることに気づかせる。</p> <p>D 観察の視点 彫刻刀の種類について 基本的彫りあとの違いについて 彫りの方向について 彫りの集中と分散について 以上が、参考作品のどのような理由でどの部分に使われているかを観察させる。</p>	<p>・紙板書 取り扱い注意事項</p> <p>観察の視点</p>
			<p>5. 彫りの試行体験をする。</p> <p>6. 試行体験をもとに自己の制作課題を明確にし彫り進めることができる。</p>	<p>5、6 作品内容 様々な基本的な彫りの工夫を作品に生かそうとしたか。</p> <p>A: 意図をもって様々な基本的な彫り方について、工夫しようとしたか。</p> <p>C: 実演により彫りあとの違いを示し、彫りの違いを具体的に個別指導する。</p>	<p>5. 実演により基本的な彫りかたと彫刻刀の安全な使い方について指導する。</p> <p>6. 単調な彫りで進めている生徒へ、参考作品と観察の視点を振り返らせ、彫りの工夫を実演にての指導する。</p>	
終末	まとめ	10	<p>7. 道しるべに本時の学習の成果・感想を記録できる。</p> <p>8. 次時の授業内容を確認できる。 (机上整理する)</p> <p>元気に挨拶する</p>		<p>7. 本時の学習を振り返り効果的な彫りの工夫ができたか記述でまとめるさせる。</p> <p>D ・彫りの工夫のあった生徒を取り上げ、どのような根拠をもって制作を進めたかを数名に発表させる。</p>	<p>道しるべ 学習シート</p>

指導と評価の計画

1年 美術		単元(題材)名 木版画「友だちの表情」		総時間 12時間		
<p>学習指導要領の指導事項</p> <p>絵や彫刻などに表現する活動を通して、次のことができるよう指導する。</p> <p>ア 自然や身近なものを観察し、形や色彩の特徴や美しさなどをとらえスケッチをすること。</p> <p>イ 対象を見つめ感じ取ったよさや美しさ、想像したことなどを基に主題を発想し、全体と部分との関係を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p> <p>ウ 描画における形や色彩の表し方、彫刻などにおける立体としてのものの見方や形体の表し方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的スキルを身に付けること。</p> <p>エ 自分の表したい感じを大切に多様な表現方法を工夫し、絵やイラストレーション、彫刻などに美しく生き生きと表現すること。</p> <p>鑑賞の活動を通して、次のことができるよう指導する。</p> <p>ア 想像力を働かせ、美術作品や児童生徒の表現などに表された作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品の見方を広げ、多様な表現のよさや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむこと。</p>						
単元の目標	主な学習活動	評価規準	美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p>・対象を見つめ感じ取ったこと基に主題を発想し、全体と部分との関係を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。</p> <p>・描画における形や色彩の表し方、意図に応じた材料や用具の生かし方などの基礎的スキルを身に付けること。</p> <p>・生徒の表現などに表された作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り、作品の見方を広げ、多様な表現のよさや美しさなどを味わい、鑑賞に親しむこと。</p>	<p>木版画の特徴やよさを理解するとともに、制作手順や道具の使用について理解する。</p> <p>自分の表現意図を明確にし、彫りの効果を考えながら構想を練る。</p> <p>表現意図に応じた効果的な彫りを工夫する。</p> <p>完成した作品から、よさや工夫した点などを話し合い、版画作品のよさを感じ取る。</p>	<p>B = 「おおむね満足できると判断される状況」</p>	<p>・木版画の特徴をとらえ、独特な技法に関心を示して、版表現のねらいを把握しようとしている。</p>	<p>・表したい表情を決め、彫りの効果を考えながら、構想している。</p>	<p>・彫刻刀の種類を使い分けることで、彫り跡を作品に生かそうとしている。</p>	<p>・作品の工夫した点や独特な版画表現を味わうことから自他の作品のよさを美しさを感じ取ることが出来る。</p>
		<p>A = 「十分満足できると判断できる状況」の例</p>	<p>・作品から木版画の特色をはっきり理解して、独特な技法に関心を高めながら版表現のねらいを十分に把握しようとしている。</p>	<p>・表現意図を明確にし、表したい表情を決定し、彫りの効果を理解しながら、十分に控訴を練っている。</p>	<p>・彫刻刀の特徴を理解して、種類を使い分けることで、彫り跡を作品に効果的に生かしている。</p>	<p>・作品から工夫点や苦労した点がわかり、版画表現の独特の味わいを楽しむことで、作品のよさを十分に感じ取ることが出来る。</p>
		<p>C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例</p>	<p>・個別に具体的な作品を示し木版画と他の版画の違いを理解させる。</p>	<p>・表したい表情を決めることが出来るように具体的に基本的描写指導をする。</p>	<p>・彫刻刀の基本的な使用法と美しく刷るための具体的な方法を個別に指導する。</p>	<p>・自他の作品のよさや違いを鑑賞できるように具体的な観点を示し、発表できるように個別指導する。</p>

次	時	主な達成目標	主な学習活動	美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	1	描画と版画の作品を比較し版画の特色を理解する。	様々な版表現から、その特徴とよさを理解する。	版画による多様な表現を理解し、表現への意欲をもつことが出来る。			
2	1	対称をよく観察し、そこから受ける印象を大切にしながら個性的な表情をスケッチすることが出来る。	友だちの様々な表情から表現したい表情を見つけ、スケッチする。		表現意図をもとに表現したい表情が伝わるように、スケッチをすることが出来る。		
3	2	表現意図を最も効果的に表す方向や姿勢を工夫し適切に画面構成できる。	スケッチの中から表現意図にあった表情を選択し、下絵を決定する。		表現方法を理解した上で、自分独自の主題を発想し、構成することが出来る。		
4	2	陰刻と陽刻の特徴や効果について理解し、画面構成と白黒のバランスを考えて下絵を完成させる。	下絵を完成させ、木版に転写する。			木版の転写の方法を理解し、下絵の版を完成させることが出来る。	
5	3	彫刻刀の種類とその効果的な使用方法を考えて、表現意図に迫るための彫りを進めることが出来る。	下絵をもとに表現意図を効果的に表現するための彫りを進める。			彫刻刀の種類とその効果的な使用方法を考えながら、彫りを進めることが出来る。	
6	1	試し刷りをし、表現意図に合うように彫りの修正すべき箇所を見つけ修正彫りをすることが出来る。	試し刷りをして表現意図にあった彫りを確かめる。			試し刷りをし、表現意図を意識した修正彫りが出来る。	
7	1	版画用具を正しく使用し、美しく刷り作品を完成させることができる。	版画用具の正しい使用法を理解し、美しく刷る。			作品として完成をめざし、本刷りをして美しく仕上げることが出来る。	
8	1	自他の作品のよさや苦心した点などを発表することができる。	相互の作品のよさや苦心したところを発表し合う。				自他の作品のよさや工夫した点、表現意図について発表することができる。

